

【日本語】2022年度 教員・研究テーマ一覧

| 氏名 | 研究テーマ |
|--------------|---|
| 化学系薬学 | |
| 井之上 浩一 | 臨床化学・食品衛生学・レギュラトリーサイエンスを目指した新たな分析化学 |
| 梶本 哲也 | 生物活性物質の探索と合成 |
| 北原 亮 | 極限環境における生命現象 |
| 菅野 清彦 | 物理化学理論に基づく医薬品の製剤設計および機能評価 |
| 田中 謙 | 天然薬物資源の開発と応用 |
| 土肥 寿文 | 持続可能な合成手法の開発と有用物質の創製研究 |
| 豊田 英尚 | 糖鎖機能の解明と再生医療への応用 |
| 林 宏明 | 薬物植物の多様性の解析と応用 |
| 古徳 直之 | 有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー研究 |
| 泉川 友美 | グリコサミノグリカンを含む糖鎖の機能解明とそれらの医薬品開発および再生医療への応用 |
| 上田中 徹 | 新規有機合成法の開発およびその応用による創薬科学研究 |
| 菊畷 孝太郎 | 機能性有機化合物の創出を指向した効率的な有機合成手法の開発 |
| 北沢 創一郎 | タンパク質の立体構造揺らぎと機能の相関研究 |
| 高橋 未来 | 食の安心・安全を基盤とした新たな分析化学技術の開発と行政への提案 |
| 馬場 まり子 | 成分や生合成を中心とした薬用植物に関する研究 |
| 生物系薬学 | |
| 浅野 真司 | 気道および脳室線毛細胞の発生と運動の解析 |
| 稲津 哲也 | 精神・神経領域の稀少疾患・難病に関するゲノムの機能解析とその予防、制御法の開発 |
| 北村 佳久 | 神経変性疾患の病態解明と治療戦略の研究 |
| 小池 千恵子 | 視覚再生医療を目指した網膜ネットワークの階層横断的解析 |
| 鈴木 健二 | 細胞内情報伝達系に焦点を当てた薬物標的の探索 |
| 高田 達之 | 細胞分化、形態形成におけるレチノイン酸シグナル。幹細胞生物学を用いた琵琶湖固有種の保存 |
| 谷浦 秀夫 | 神経発達障害に関する遺伝子と細胞分化機構の研究 |
| 中山 勝文 | 病原体に対する免疫応答機構を解析する |
| 服部 尚樹 | 薬物治療の最適化：ホルモン自己抗体陽性者における臨床検査の再評価 |
| 天ヶ瀬 紀久子 | 種々の消化管疾患の病態解析ならびに予防・治療法探索 |
| 河野 貴子 | 細胞機能を制御するシステムの動作原理の解明 |
| 藤田 隆司 | 幹細胞を標的とした創薬プラットフォームの開発 |
| 川口 高德 | 上皮組織における膜タンパク質や細胞の機能調節に関わる分子の機能解析 |
| 添田 修平 | 分化・発達に関連した遺伝子の機能解析 |
| 西江 友美 | 発生において形態異常を引き起こす分子機構の解析 |
| 野依 修 | 病原体の病態増悪機構と生体防御機構の関連性解析 |
| 文 小鵬 | 腸内環境と神経変性疾患の関連性解析 |
| 正木 聡 | スプライシングアイソフォームが織り成す細胞内情報伝達機構の解明 |
| 松田 孟士 | アルツハイマー病における認知機能障害発症機序に関する研究 |
| 森藤 暁 | 網膜の分子、細胞、組織にかかわる研究 |
| 医療系薬学 | |
| 一川 暢宏 | 医薬品の適正使用に関する臨床薬学的研究を展開し、薬物療法の最適化をめざす |
| 桂 敏也 | 薬物代謝酵素・トランスポーターの機能・発現変動に関する研究 |
| 角本 幹夫 | テーラーメイド薬物療法を目指した医薬品の適正使用に関する研究 |
| 藤田 卓也 | 薬物動態・薬効に関するトランスポーターの機能評価 |
| 細木 のみこ | データベースを用いた医薬品等の有効性および安全性の評価に関する研究 |
| 上島 智 | 個別化薬物療法を指向した薬物動態と薬効に関する速度論的解析 |
| 小川 慶子 | 医薬品等の化学構造が有効性および安全性へ及ぼす影響についての研究 |
| 坂口 裕子 | 医療現場と連携し、適正かつ最適な薬物療法を目指した医療薬学研究 |
| 根来 亮介 | ゲノム編集技術を用いた創薬応用可能な薬物代謝能を有する腸・肝モデルの作製 |
| 藤野 智恵里 | 薬物代謝酵素と薬物トランスポーターの発現変動およびそのメカニズム解明 |
| 薬学系教育 | |
| 近藤 雪絵 | 学習者主導の授業運営方法と薬学生のための英語学習教材の開発およびコーパスを利用したディスコース分析 |
| 三浦 信弘 | 薬学系における物理の基礎教育に関する研究と教材の開発 |
| 森本 功治 | 理解度の高い有機化学教育や化学的視点からの医薬品の考え方に関する研究 |
| 布目 真梨 | 薬剤師・薬学教育における発展的研究 |